

はじめに

現代の農業は、食料危機や気候変動など数多くの深刻な問題を抱えている。食料生産は増えても飢えはなくなっていないという矛盾も生じている。私たちが持続不可能な形で農業を続けてきたために、農業の基盤そのものが脅かされ、世界の食料生産システムは今や完全に崩壊している。慣行農業は、気候変動を含む様々な問題の元凶である。そして、そのしわ寄せを最も受けているのは、最貧国の零細で自給的な農家だ。「開発のための農業科学技術の国際的検証」(International Assessment of Agricultural Knowledge, Science and Technology for Development、略称 IAASTD)¹ は、もはや現状維持という選択肢はないと結論づけた。さらに、農業の未来は、高い生産性を保ちつつ、社会・経済・環境に関する目標を達成することが可能で、生物多様性に富む、アグロエコロジーに基づいた農業に託すしかない、と断定している。

アグロエコロジーは、農業生産性を維持しつつ、環境や地域社会に配慮した未来の農業の姿として認められつつある。その設計思想や管理の手法は、生態学の概念や原則に即している。アグロエコロジーを取り入れた農業システムは持続性が高く、経済状況や気候条件が変化しても一貫して高い生産性を維持することが証明されており、飢餓の解消に貢献できると考えられる。

第三世界ネットワーク (Third World Network、略称 TWN) は、この分野における人材育成が急務であると考え、二回にわたりアグロエコロジー研修会を実施した。研修の目的は、農業に関係する各分野のキーパーソンに、概念や原則への理解を深めてもらい、事例紹介を通じてその実効性を証明することであった。その第一回は、インドネシアのソロにおけるアグロエコロジー東南アジア研修である。2013年の6月5日から9日まで、インドネシア小農民連盟 (Aliansi Petani Indonesia、略称 API) との協賛で開催された。第二回は、アフリカ生物多様性センター (African Centre for Biodiversity、略称 ACB) 共催、カシシ農業研修センター (Kasisi Agricultural Training Centre) 協賛で、2015年4月20日から24日までザンビアの首都ルサカで実施した、東部・南部アフリカ・アグロエコロジー知識技能研修会である。

研修の内容を以下に示す。

- アグロエコロジーと世界の食料・エネルギー・経済・社会の危機
- アグロエコロジーの概念と原則：その科学的根拠
- 農業生態系における生物多様性の生態学的役割
- 生物多様性と害虫防除
- 土壌の生態学とその管理
- 生態学に基づく病害対策と雑草管理
- 有機農業への転換のためのアグロエコロジー的基盤
- アグロエコロジー、小規模農場の振興と食料主権
- アグロエコロジーと気候変動に対するレジリエンス

本研修では、米国カリフォルニア大学バークレー校およびアグロエコロジー中南米科学協会 (Latin American Scientific Society of Agroecology、略称 SOCLA) のミゲール・アルティエリ教授、クララ・ニコルズ博士が講師を務め、農家、農業リーダーほか、アグロエコロジーや生態系に配慮した農業を推進する市民団体や農業団体の代表、行政関係者などが参加した。

本書は、研修における講義の要点を TWN のスタッフがまとめたものであり、アグロエコロジーの基本的な概念、原則および実践を学べる内容となっている。ミゲール・アルティエリ教授には貴重な情報を提供して頂いた。

- 1 IAASTD (2009). *Agriculture at a Crossroads. International Assessment of Agricultural Knowledge, Science and Technology for Development*. Island Press, Washington, DC. <http://www.agassessment-watch.org/>